

中村哲医師アーカイブ

\* 西日本新聞（一九八七年九月七日掲載、「地の果てから」第一回）

## ティリチ・ミールとの対話

不条理への復讐

中村哲

### ハンセン病根絶へ

一九八四年五月二八日、私はパキスタンのイスラマバード空港に降りた。日本基督教海外医療協力会（JOCs）より派遣され、パキスタン北西辺境州のペシャワールで医療協力を行うためである。私の任務は、主としてこの北西辺境州政府のハンセン病根絶計画に民間側から強力な援護射撃をすることにあつた。

機内から降りると、吹きつけてくる乾いた

熱風がたまらなく懐かしく感ぜられた。実は

これは私の六度目のパキスタン訪問であつた。最初にやってきたのは一九七八年、福岡登高会（新貝勲会長）のティリチ・ミール遠征隊に参加してからで、その時感ずるところあつて北西部の山間部に興味を抱き、ほぼ毎年のようにこの地を歩き回つて来た。

北西辺境州はパキスタンの西北端に位置し、西のスレイマン山脈と東のインダス川との間を自然国境としている。民族、言語ともに事実上アフガニスタンの連続である

が、英国植民地時代に英領インドの一州に編入されたものである。一九四七年の分離独立でパキスタンの行政下に入ったが、今なお現地民であるパシクトゥン部族は隣国アフガニスタンとのきずなを捨てず、国境を無視して自由に往来している。

生活水準は低く……

ヒンズークッシュ山脈はこの北西辺境州北部からアフガニスタンのど真ん中を南西につきぬけてパミール山系の西翼をなしている。その最高峰がティリチ・ミール（七七〇メートル）である。この山に私の忘れ難い思い出がある。

一九七八年六月、私を伴う遠征隊はチトラールから南バルム氷河に入り南壁に挑もうとしていた。ベースキャンプまでのキャラバンの途中、私は観光省から住民の診療拒否をしないように申しわたされていたので、村々で病人たちを診ながらキャラバンを続けていた。

住民の生活水準は恐るべき状態であつた。病人がかなり重症でも、ゆきずりの旅人たる私にはどうしもようもなく、処方箋を渡したとてそれを彼らがまともに入手できるとは思えない。まず登頂が本来の目的であるから、貴重な薬品は隊員のためにとっておかねばならぬ。結局子供だましのような錠剤を与え、診療するふりをして住民の協力を得ざるをえなかつた。

“日本流”は不可能

ある時、咳と咯血を訴えて連れてこられた青年がいた。父親が治療を懇願した。明らかに進行した結核で、放置すれば長くはないと思われたので、町に下りて検査をうけ、きちんとした治療をうけるように申しわたした。ところが答えて曰く「町でもともな治療がうけられるならあなたの所には来ない。第一、チトラールやペシャワールに下るバス代がやっつとで、病院で処方箋だけもらって、どうしろというのか」。

慣れというものは恐ろしい。日本で我々が享受している医療がいかに高価でぜいたくなものであるか、保険診療に慣れている我々には理解を超えるものがあつた。山岳部の住民は自給自足で、現金収入は極端に少ない。現金生活者でさえ、月収は平均六〇〇〜一十千ルピー（五千〜九千円）であるから、まず日本流の診療は不可能と言ってよい。

### 道すがらに病人……

これは一つの衝撃であつた。しかも病人は彼だけでない。道すがら、失明したトラ

コーマの老婆や一目でハンセン病とわかる村民に「待って下さい」と追いつがられながらも見捨てざるを得なかつた。これは私の中で大きな傷となつて、キャラバンの楽しさも重い気持ちで半減してしまつた。休暇の都合で一足先にベースキャンプを下り単独で帰途についたが、村々で歓待されると割り切れぬ重い気持ちはますます増幅した。

目を射る純白のティリチ・ミールは神々しく輝いている。荒涼たる岩石砂漠に点在する緑のオアシスの村々は、さながら自然にひれふして寄生する人間の鳥瞰図である。私は山と対話する。我々は地表を這う虫けらだ。いかなる人間の営みもあなたの前では無に等しい。逆らえぬ摂理というものがあれば、喜んで私は何かの義理を果たしましょう……そうつぶやいた。

### 不条理に対する復讐

それは良心のうしろめたさから解放されたいという自分の都合や感傷であつたのか

# 【新刊】中村哲 思索と行動

「ペシャワール会報」現地活動報告集「上」1983〜2001

中村哲 著

ペシャワール会 発行

A5判上製43頁（カラー8頁）

2970円（税込）



病・貧困・戦乱・干ばつ…世界の不条理に挑む長い旅が始まった。

会報に掲載された中村医師の三七年間の報告をまとめました。ぜひご購読下さい（書店・事務局で発売中／下巻は来春刊です）。

## PMSの動き

- 3月 例年より多くの降雨があり、各作業地で小規模な補修工事を行なった。
- 3月21日 ノーローズ（イスラム暦元日）
- 3月23日～4月20日 ラマダン期（断食月）
- 3月30日～4月26日 PMS支援室員3名がジャララバード事務所に滞在
- 4月21日～23日 小イード休暇
- 4月25日～5月11日 ガンベリ農場で麦刈り
- 5月17日 バラコット用水路1.5kmまで試験通水

### ▼寄付をしてくださる皆さまへ

\*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますよう、お願い致します。

もしれない。また村人の方でもそう深刻に考えず、あきらめの方が強かつたであろう。しかし、一時の熱ならさめもしようと割りきって山を下りた。

その後の不思議な縁の連続は、五年後にこの北西辺境に、いわばこの時の啓示によって私を呼びもどしたようである。当地への赴任は私のこの時の衝撃の一つの帰結でもあつた。同時に、このような、あまりの不平等という不条理に対する復讐でもあつた。